

# 今週のお薦めレコード

どれも優秀録音



## このレコードを聴きたい

第8057番 税込み3300円



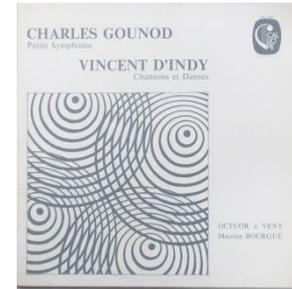
ストラヴィンスキー プルチネルラ組曲  
 ミューズを率いるアポロ  
 アカデミー室内管/マリナー  
 英アーゴ/ZRG575/溝無しラージ/オリジナル/  
 1968年録音/フィル・リース選定優秀録音盤  
 「春の祭典」によって音楽の歴史を変えたストラヴィンスキーが一転して古典主義に基づく作品を書き、アンセルメがパリで初演したのが『プルチネルラ』であり、大好評を得た。十二音楽などに支配されつつあった中で、これは新鮮だった。“アポロ”も同じ路線で作曲され、世界で歓迎された。バロック・古典を中心に録音を重ねていたマリナーによる新たなレパートリーへの挑戦は、レコード界の方向を変えるほどの出来事だったとも言える。古楽復興への距離を保ちながらも信念を持ち続けたマリナーの一つの回答がこれである。(山田)

第8058番 税込み2750円



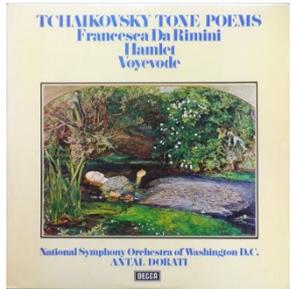
ビゼー 交響曲ハ長調、組曲『ローマ』  
 バーミンガム市響/フレモー  
 英EMI/ASD3039/1974年録音/オリジナル/  
 優秀録音  
 ビゼーがモーツァルトと1年違いで夭折したことは知られていない。私は古典的な佇まいを見せる『交響曲』が大好きだ。彼のサウンドは常に陽性で、生活に喜びを与えてくれる。組曲『ローマ』の録音は珍しい。48歳でバーミンガム市響に招かれ、ロンドンのオーケストラと並ぶほどの力を育て上げた腕は素晴らしい。例えばラトルなどはその恩恵を受けたわけである。彼の演奏は説得力がある。つまり、音楽の内包するエネルギーをありのままに伝えてくれる、言い換えれば余計な演出をしない指揮者なのだ。ビゼーの持ち味である純粋な感覚は、このような指揮者であってこそ引き出せる。(山田)

第8059番 税込み3300円



グノー 小交響曲  
 ダンディ 歌と踊り(ディヴェルティメント)  
 モーリス・ブルグ管楽アンサンブル(9名)  
 仏カリオペ/CAL1827/1975年録音/キスロフ技師によるワン・ポイント録音  
 全員がパリ管団員であり、言わば小型パリ管を楽しむようなものだ。ホルンを含む木管アンサンブルで、機知に富んだ作品を正にディヴェルティスマン(お楽しみ)で進めて行く。肌を撫でるような優しい音色あり、メリー・ゴーラウンドのような快適な気分も運んでくる。よく言われる、午後のひとときにバルコニーに出て寛いで聴くには格好の音楽だ。グノーもダンディもドイツ音楽の影響の下に、フランス風の粋なメロディーや和声を加える達人である。あまり知られていない作品だから、期待もあり、新たな感動も生まれるだろう。(山田)

第8060番 税込み3300円



チャイコフスキー 『フランチェスカ・ダ・リミニ』  
 『ハムレット』、『ヴォエヴォーダ』  
 ワシントン・ナショナル響/ドラティ  
 英デッカ/SXL6627/1973年録音/ウィルキンソン技師、ムアフト技師による優秀録音  
 音楽監督であるドラティが育て上げた三年間の成果を披露。ライナー、セル、オーマンディなど同郷ハンガリー系指揮者が多い中で、響きの逞しさ、鋼のような揺るがない動きはドラティが一番だろう。この演奏はチャイコフスキーの憂鬱も、夢のような美しさも十分に感じられるが、ドラティによって強い生命力が引き込まれているのが特徴だ。生涯、チャイコフスキーの音楽を愛し得意にしたドラティの“ヴォエヴォーダ”など珍しい作品も含んだ新レパートリーの披露はジャケット画の魅力とデッカ録音の優秀さもあって人気を浚った。(山田)